

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-C-1		更新日	2025/2/20
サイト名		古代出雲の史跡群～ ^{やくもた} 八雲立つ ^{ふどき} 風土記の丘			
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他			
	所在地	松江市大庭町他			
	指定別				
	種別				
	指定／登録年月日				
	管理団体／モニタリング	島根県立八雲立つ風土記の丘			
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☒ 売店 ☐ 飲食店 ☒ 駐車場(風土記の丘 60台)			
	留意点				
サイトの解説	歴史・文化	松江市南部にある茶臼山の西の裾野に八雲立つ風土記の丘がある。この松江市の大庭地区・竹矢地区一帯は、島根県を代表する文化財(史跡や社寺等)が集中する古代出雲の中心地である。島根県ではここに東西5km、南北4kmの範囲を定めて八雲立つ風土記の丘と称し、点在する史跡群をフィールド・ミュージアムとして総合的に保存・活用している。風土記の丘地内には、島根県最大の山代二子塚古墳(前方後方墳)があり、周辺には奈良時代に設置された出雲国府跡・出雲国分寺などがあり、政治・経済・文化の中心地であった。さらには、出雲大社の出雲国造家ゆかりの神社や寺もあり、古代以来の歴史文化が今も息づいている。 展示学習館には、風土記の丘地内の出土品や『出雲国風土記』写本などが展示しており、なかでも「見返りの鹿」埴輪や「額田部臣(ぬかたべのおみ)」の銘文入り大刀は重要文化財で全国的にも著名なものである。			
	地形・地質、生物・生態等	出雲地域では25m前後の低位段丘面は、陸成の乃木層が堆積しており、およそ10万年前以降にできたと考えられている。風土記の丘はこの段丘堆積物とこの一帯に広く分布する安山岩が山地側にあり、意宇平野を一望できる丘陵地である。 日本最古の大社造である国宝の神魂(かもす)神社は、古代出雲文化発祥の地として知られる意宇平野の南西に広がるこの丘陵地にある。建造地は約1,300万年前の軟質な安山岩質砂岩と泥質砂岩でできた場所であるため、緩やかな傾斜地となっている。			
写真・図等		 茶臼山手前の岡田山古墳群		 島根県立八雲立つ風土記の丘資料館外観	
参考文献					